

平成 26 年 2 月 20 日

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業  
四国の全薬学部連携・共同による薬学教育改革  
事業代表 徳島文理大学学長 桐野 豊殿

香川県薬剤師会会長

評価委員会議長

辻上 巖



## 提言書

H26 年 2 月 17 日に、香川県県民ホールにおいて、17 名の評価委員と 6 名の評価委員代理が出席し、評価委員会（AB 合同）が開催された。事業代表の徳島文理大学 桐野学長から H25 年度の事業成果と来年度の方針の報告があった。また、事業担当者から個別の成果報告があった。報告を受けて以下の事を提言する。

「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革」事業は H24 年度から始まった事業であり、本年度は 2 年目に当たる。本事業は薬学教育改革に特化した事業であり、他に例を見ない。また、薬学関係者だけではなく、4 県の教育関係者も含めて薬学教育改革を進めているところに本事業の特徴がある。四国は、高齢化率が高い地域であり、過疎地域も多くある。また、今後、東南海地震も予想される地域でもある。四国の薬学部においては、各大学の力を結集し、高齢者医療、へき地医療、災害対応医療や在宅医療の推進など、地域における先導的な役割を果たす実践的な薬学教育のモデルを構築し、地域に貢献する質の高い薬剤師を養成することが望まれてきた。以上の課題を解決するため、患者の立場に立ち個々の患者の状況に適格に対応できる臨床薬剤師の育成、そして地域に密着した薬剤師を育成する事を本事業に期待する。四国の 4 薬学部が連携して学部・大学院教育改革を実施することは、地域医療からの要望に応えた薬剤師の養成や現職薬剤師の質的な向上に大きく寄与する事になる。また、高校生に薬学を知って貰うための高大連携事業は薬剤師不足を解消する力にもなる。遠隔講義システムの活用は大学での教育だけではなく、現職薬剤師の質向上に繋がる有効な手段であり、大いに活用して頂きたい。この取組を通じて、3 大学 4 薬学部を卒業した薬学部生が四国のみならず我が国の保健・医療・福祉の向上に大きく貢献することを期待する。評価委員会としても、積極的に地域の要望を事業関係者に伝えるとともに、4 薬学部と連携協力して事業成果を地域に還元して行きたいと考えている。